

# 弓道なごの

第38号

発行：長野県弓道連盟  
会長 土川俊市  
〒399-6303  
塩尻市奈良井611  
TEL0264(34)3063  
編集：県弓連広報部  
印刷：(株)成進社印

## 巻頭言

### 穀 (やごろ)

長野県弓道連盟 副会長  
外 園 公 毅



剣道や柔道など武道には「極意」というものがあるが、弓道の極意は何であろうか。教本には「真・善・美」「正射必中」「射即人生」など、また「礼記―射義―」「射法訓」にそれらしい言葉が出てくるが、個人的には「うーんこれだ」というものが今までなかった。

弓道は他の武道とは違い闘う相手のことを研究する必要がない反面、自分の心・技・体をより知る努力が必要になってくる。それ故他の武道より論理性の部分が強く出てきたのではなからうか。先日友人と飲んでいて「人間性・品格の向上、至誠・礼

節の体得は何も弓道でなくとも他に学べるものがあるのではないか。弓道をやるとはやはり中てることが目標ではないのか」という話が出た。異論は承知の上で、模範解答、建前論ではなく、日頃練習していて何を目標としているかと問われて「正射必中」である。その修練の中から射品射格、品格が備わってくればそれに越したことはない。

「正射必中」である。その修練の中から射品射格、品格が備わってくればそれに越したことはない。



ここ十年「震える」という病癖で悩むようになって、何が苦しいかという、狙いが定まらず、狙いを探るのに精一杯になって伸び合い、詰め合いを忘れてしまう為、緩み、離す時期を逸して「もたれ」てしまうことである。勿論最初の頃は震えること自体に恐怖感があり、人前で引くのが嫌であったが、弓を嫌いになったことはない。

狙いについては正鵠を狙っているからといって必ず中るわけでもないし、あまり気にしなくなったが、伸び合い詰め合いは相変わらず満足いくものではなかった。その頃駒ヶ根市体協弓道部の知人から布に染め抜いた書を額入りで頂いた。「穀率静動之極」という書である(写真)。これに以下のような注

積がついていた。「こうりつせいどのきわみ 穀は静と動の調和、会に入って離れる直前(ころ合い 穀)は、静と動の極みをなす。法性山大蔵寺承天和尚書、訳。」かつてまだ震えていなくてそれなりに中りもあつた頃は「やごろ」なんてあまり気にせず離していた。そうかといって「やごろ」に達する前に思わず離れてしまう、いわゆる「早気」であつたわけではない。それなりに気力も充実して思い切りよく離していたような気がする。

確かに十秒近く持つて伸び合い詰め合い、気力も充実して気合の発動で離して中てるのは至難の業である。況んや震えておればおや、である。2、3秒で思わず離れるのは「やごろ」とは言わない。

最近とはかく伸び合い詰め合いだけを考え緩まないように頑張っておればときたま(まったくたまに)「おおっ」と自分でも驚くような射が出ることもある。まだまだ今の私の射は「やごろ」であつたから離れたのではなく、どうしようもなくなつて放つ射である。多くの弓士も今「やごろ」だからと意識して離す人はいないと思う。離れたからそれが「やごろ」であつたのだからと、将に張り合つた糸がプツンと切れるような自然の離れをしたものだと思つている。

## 春季講習会

今年の春季講習会は「中央審査での合格をめざして」という具体的な目標を掲げ、昨年までとは対象者と方法を変更して実施されました。各部の受講者の報告をまとめました。

### 【錬士の部】

#### 春季講習会

南佐久支部 亀岡 英司

去る四月三日、長野運動公園弓道場で開催された春季講習会に参加しました。当日は、四月に入ったにもかかわらず気温が0度近くまで下がり、暖房を焚きながらの開会式となりました。錬士受審予定者限定にもかかわらず欠席者を除いて五十二名、執行部の予想よりかなり多数の受講者だったようです。神拝の後、主任講師の県連会長土川先生より過日の震災による県連行事への影響についてお話をいただきました。事業はできるだけ平常どおりに行つて、その上でできることはしていくべきとの方向性を示されました。

受講者全員の審査の間合いによる一手行射の後、先生方にご講評をいただきました。『すでに入場から、周りに足を合わせることに精一杯、これか

ら行射をするという気迫が感じられない』という全員に共通する課題としてのご講評でしたが、私自身まさにそればかり考えていたことに打ちのめされたような気分になりました。

この一手行射は我ながら良くなかったと思います。ここ数年、的を追いかけてきた私にとつて、形ばかりにとられると行射に集中できないことがある、という課題が明確になってしまいました。十分に練習して自然に正しい動きができるようにならなければいけないと感じました。

その後、面接についてのお話をいただきました。そしてこの日一番時間を費やした射技のご指導をいただきました。最後に受講者全員による持的射礼で講習会を締めましたが、どんなときでも動きに気持ちを込める、息合いに合わせた動作をする、

形を合わせるだけではいけない、ということも勉強した一日でした。

閉会式では、『審査に向けて完璧に準備したつもりでも、本番でうまくいかないことは誰でも経験のあること。自分は完璧だと思つたら成長もその時点で終わってしまう。体配の練習は一人でもできるので、常日頃からやっておくことだ』という土川会長からの話をいただき、あらためて心に刻み込みました。



右端：亀岡英司さん（5月28日 東海地区臨時中央審査で錬士に合格）

### 【六段の部】

#### 六段受審者の部に参加して

塩尻支部 大和 邦浩

参加者が多かったため、急遽講師の先生も増員していただいたと伺いました。受講生からの質問も飛び交い、大変盛り上がった講習会でありました。先生方の思いを受けまして、受講生全員、錬士取得をめざして頑張りたいと思います。

平成二十三年度春季講習会は、従来の春季講習会とは一変して、中央審査を見添えた実践的な講習会となった。中央審査の各称号・段位別に県内各道場に分れ、四月三日午前九時から講習会は開始された。私の受講した六段受審者の部は、上田市弓道場が会場であり、範士八段大久保秀雄先生・教士七段清水克也先生を講師として行われた。開講式に先立ち、講師以下受講者全員で、本年三月十一日に発生した、東日本大震災による、犠牲者の方々に對し黙祷を行い、一日も早い復興と亡くなられた方々に哀悼の意を捧げた。主任講師の大久保先生も挨拶の中で大震災に対するお気持ち述べられ、私自身今弓を引けることの有難さを痛感させられた。



開講式後、模擬審査を実施し、大久保先生・清水先生から講評を頂く。特に大久保先生からは、今回の講習内容を踏まえ、模擬審査を実施して受講生個々に講評を頂いた。受講者の中には数名、お褒めの言葉を頂いた者もあり、正に実践的な講習会である事を感じさせた。個々の講評の後、全員に対し、「弓射の冴え」と題し講話があり、人に感動を与える射について、黒板を利用して熱意ある講話を頂いた。その後、射場内で肌脱ぎ・襷掛けの研修があり、

清水先生から肌脱ぎ・襷掛けの注意点について説明と指導をして頂いた。昼食終了後、大久保先生・清水先生による一つの射礼による模範演武があり、両講師の熱意が表れた演武に、受講者一同真剣な眼差しで演武に見入った。模範演武終了後は、射技研修を行った。午前中に大久保先生が説かれた、「弓射の冴え」を求め、時間の許す限り講師に受講生が群がり熱心な射技研修となった。射技研修終了後には、審査実演があり、審査方式による仕上げの一手行射を実施した。各自、最後の一手でもあることから、本日学んだ事を精一杯表現し、指導を受けた点を意識しながら一手行射を行った。講習の最後に、大久保先生から講評を頂いた。大久保先生は、一日を通して受講者全員が六段合格に近付いた事、また感動を与える射を更に目指すように修練に励むことを切望された。

当講習会は、先にも述べたように各称号・段位別に会場が分けられていたことから、講習内容が広く浅くではなく、的を絞った内容の濃いものであったと感じる。それは、各受講者の審査内容に合わせ

た講習内容であった事と、同じ目標に向かつて日々稽古に励んでいる弓人同士の意見交換の場にもなったからである。今回講習会に参加して私自身、未熟さを更に痛感するとともに、ご指導して頂いた点を今後の稽古の糧にし、大久保先生が切望された、人に感動を与える射を目指して日々稽古に励んでいきたい。

### 【教士の部】 春季講習会へ参加して

飯山支部 清水 和代

四月三日、塩尻市菅弓道場において山川先生、杉田先生の両講師のもと、二十名が受講しました。

受講対象が昨年までと変更になり、審査の受審を目的とした講習会になったので、教士の審査本番と同様の一次審査・二次審査方式で行射しました。

まず、一次審査として受講者全員が一手行射、そして一次審査通過者として、六名が二次審査として一つの射礼を行いました。

こういった審査を模した形の講習会は初めてでしたが、緊張感がありとても良かったです。

その後、山川先生から面接時の留意点と共に、受審の心構えの講義をいただきました。



面接時の留意点は詳細であり具体的でした。続いて、審査を受けるにあたっての心構えについてお話いただきました。

例えば、「自信をもって臨む」ということです。審査を受けるまでに練習を重ねてきているのだから、消極的にならないように。そして、上手く引くことはできないけれど一生懸命引くことと、気合や気力だけは負けないつもりで引くといくことでした。

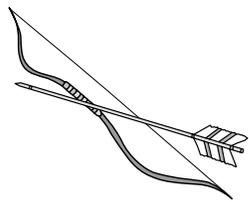
次は、「平常心」です。良く引こうと思わない。入場前に全ての人が、不安を感じているもので、慎重になり過ぎず、動作が間延びしないように。これは、息合いでリズムのある運行が大切であるということでした。

それから「残身(心)」です。やはり残身が決まることは重要であるということでした。

講習会についての講話はいつも先生方の経験に基づいたお話なので、心に残るのですが、審査を受ける前ということもあり、受講者全員が一言も聞き逃すまいといった感じで、真剣に耳を傾けていたと思います。

午後は、射技指導と射礼の指導でしたが、こちらも講師の先生方に指導いただいたことが自分のものになるよう取り組みました。

今回の講習会は、受講者が皆同じ審査を目標とする対象者であったこともあり、これまでの講習会とも違った緊張感や真剣さがあつた講習会になったと思えました。



## 【七、八段の部】

### 受審者別春季講習会

藤澤 敏子

四月三日春季講習会、七段八段受審予定者の部は県営飯田弓道場に、範士九段宮澤廣先生をお迎えし開催しました。

宮澤先生から

「真善美の追求 中りも必要だが中りだけを求めてはいけない。」

「感動を与えるような、力強く大きな離れの射を目指してもらいたい。」

「審査規定に、七段は射型、射術、体配自ら備わり、射品高く鍊達の域に達した者。八段は技能円熟、射品高雅、射芸の妙を体得した者。」と記されている。県連の指導重点項目、「縦横十字の構成・息合・十文字離れの完成・残心(身)美の顕現・的中至上主義ではない」を重視し、射技・体配を確実にに行えるようにして欲しい」と挨拶がありました。

一手行射の後、一番の入場は息合いをを使い、正しく四五度の礼。息合いで歩く。正しい動作を行う。息合いは長すぎ短かすぎないこと(特に間伸びをしない)弓構え、腹に力を入れる。腹の力で引き分ける。縦線を活かして横線をつくる。会で矢は水平とな

るように。片離れ、振り離れにならないように。縦横十字からくる丹田の離れをと細部にわたつての講評でした。常日頃の甘さを知るところとなりました。

休憩後射技を中心に一人一人、何度も細かいところまで指導頂けたのは、受講生十三名だけだった特典でしょうか。

二次審査の一つ的射礼後には、車の両輪としての体配をより活かすためにと、入場の足の運び、半足の引き方、目つかい、退場口で神前に向きを変え意を表する時の足の運びなど等の細かい注意と、審査の心得などのお話が大変参考になりました。

仕上げの一つ的射礼では、全員が緊張感を持って行い、先生から朝の一手とは格段の違いとお褒めの言葉を頂くことができました。

最後に宮澤先生から、「かつて長野県は七段・八段の有段者が大勢いた。更なる稽古、修鍊を重ね奮起して昇段を目指し、そして昇段をして欲しい。」と気持ちを伝えられた。受講生一同身が引き締まる思いでした。

四月とはいえ肌寒く、冷たい風の吹く中、一日中立ち通しでご指導下さいました宮澤先生に心から感謝申し上げます。



# 女子称号者講習会に参加して

中高支部 民野 千代子

四月十六日、十七日の両日松本市弓道場に於いて、範士八段秋山照美先生を講師にお迎えして開催され、三十五名が参加した。

初日、矢渡は、入場から退場迄それは優雅で流れる様に行われた。矢渡後介添指導で草履での歩き、蹲踞と片手指建の違い、替弓の渡し方。基本体の確認では武道としての身仕度、襷さばきは水流れで円相、礼は顎の上下に注意、歩きは太腿、膝、爪先三つを正面に正対させる等、指導頂きながら、知識は有るが、意識が不足！との指摘で緊張となぜか充実した気分になる。兎に角二日間一貫して「基本に徹する」が強調された。

〈講話〉弓道はこれから、更に楽しい事が沢山有るので、体を傷めず長く続けて貰いたいと前置きされて。  
・「自分を囲む球体を想像し、その小宇宙を感じてみて下さい」の話は特に印象が深い。  
・女性は日頃より関節の歪み、筋力の低下を常に補う必要がある。  
・正しい姿勢と理に叶った骨法で弓をひいて欲しい。  
・射技について、丹田と股関節足踏み

の三角が重要である事を、『富士の裾野と噴火』『種は根から先に出る』に例え詳しく話された。  
射技指導、射礼研修、矢の処理を行い、何もかも教えて貰おうと思わない事。自分が変わる努力無しに成長は無い等厳しい教訓が在り肝に銘じた。  
閉講の挨拶で、人と決して比較しない事。自己責任において行動する事。の詞は、大変に重く、弓道修練や日常生活のベースとしたいものである。  
女子講習ならではの指導や弓道修養の在り方等、大切な課題を得られた。風のある花冷えの両日、終始優しく指導される先生の凛とした姿に見落れながらも、熱き指導を逃がすまじと、集中した講習会と成りました。

この機会に恵まれ参加出来た事、心より感謝いたします。



平成23年度 長野県女子称号者講習会

## 弓仲間紹介

### 穂高弓道会

安曇支部 渡辺 晃

毎年三月中旬は冬と春がせめぎ合う季節で、天候は安定しません。今年も三月十七日は真冬に戻ったかの寒さでした。この寒さの中、今年も穂高神社が奉納する弓道大会に、県内各地から多くの弓士のご参画をいただきまして、篤く御礼申し上げます。

この日は穂高神社恒例の奉射祭です。この奉射祭は室町時代明応十年(一五二〇)に記録があります。それ以前の記録は焼失されましたが、他の有力神社同様、古来より続いているであろうと推測されています。奉射祭は、神殿前に掲げられた大的に向かい、神官が十二本の矢を射て、月々の晴雨、豊凶を占うものです。奉納される弓道大会は穂高弓道会が主管しています。当日がウィークデイであっても、若い会員も含め多くの会員が運営に携わっています。更に、穂高商業高校の弓道部員も手伝ってくれています。  
穂高弓道会は安曇支部に所属しています、よりアットホームな会です。



管理運営上の決まりというものがほとんどありません。道場の使用記録すら無く、個々が己を律して修練と貢献する事で成り立っています。  
弓道場の屋は以前額殿でした。これに床を張り周りを囲い屋根を足して射場としました。主屋根が神殿造の形を備えているのはその為です。  
射場はやや狭い六人立ちです。  
穂高神社境内、うっそうとした杜の一隅にあるこの弓道場には独特の雰囲気があります。神官が朝夕奏上する祝詞と太鼓の音と共に、弦音が杜に響く趣深い弓道場です。  
弓士の皆様には、是非この雰囲気を経験していただきたく思います。

# 北信越地区指導者講習会に参加して

上伊那支部 久保田 智恵

五月十四日より十五日にかけて、五月晴れの県営富山弓道場にて標記の講習会が開催され、長野県七名の受講生と共に参加した。柴田猛範士、近藤峯英範士が講師をつとめられた。

柴田先生は「今年度は特記する伝達事項はないが、昨年より増して基本を正しく行うことを心がけて欲しい」と強調された。



近藤先生は介添えの講評のなかで「弓道はすべてにおいて心を通わせる事が大切」と話され、これは行射や介添えだけでなく、日常生活にも活かすことであると感じた。一日目の午後、基本の姿勢・動作の研修では立ち方(膝を締める事、立つ時に重心は土踏

まずの前にありすぐに次の行動に移せる状態にしておく事)、座り方(引き膝はダメ)、開き足(左へ開き足では右膝は動かさない)などを繰り返し行った。その後、両先生が受講生の前で引いて見せてくださり、普段の稽古の取り組みについて話された。

柴田先生は、中指と拇指だけで引く、天文筋をずらすなど、手の内を明かしながら、色々と変化させて引かれた。大切なのは、残身で崩れない事、さらには残身の手の内が決ればそれはそれで良いとのことだった。これで良いと決めつけずに稽古ではいろいろ試してみたい、一日百射は引くように、また自分の目標を高く持つ、無駄のない射、スキのない射を目指すなどの話があった。

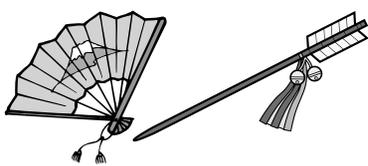
範士になられてもなお、日々稽古に工夫を重ねておられる姿を感じ、この

向上心、好奇心こそ範士たる所以であると思われた。

講習会の最後は、スポーツ指導員検定行射を一次審査方式で行い、一人一人講評をいただいた。まとめの行射で再度個人の課題を振り返ることができたのは良かった。両日とも班別の射技指導にかなりの時間を割いていただいた。私個人は胴造りが崩れ覗きであること、手の内が会で負けないよう押し続ける事を指摘された。

柴田先生が「この研修でついた痛みが残る二、三日のうちに引いて復習しないとすぐ忘れちゃうよ」とおっしゃったので、翌日すぐやってみましたが、自分のものにするにはまだまだ工夫が必要だと感じた。

緊張した二日間であったが、厳しさの中に楽しさがあった。この楽しさを伝達することができたら、と思う。



## 弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)  
12人立2ヶ所  
遠的道場 1ヶ所

### 帝産ロτζヂ

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山 1003

HP : <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

# 平成23年度全日本弓道連盟 定時評議員会報告

全日本弓道連盟評議員 外園 公毅

五月二十六日東京品川プリンスホテルで行なわれた平成二十三年度全弓連定時評議員会に山川名誉会長と参加してきました。内容の概略については近々機関紙「弓道」に掲載、また通達などで追って連絡があるかと思しますので、今回は評議員会の開催状況などについて報告します。

長野県は新体制になり全弓連の評議員も新会長・理事長に変更になりました。また、今回、送られてきた評議員会の資料にも平成二十三、二十四年度評議員一覧(一〇八名)は新会長・理事長の名前になっておりました。以前に山川先生から今回の評議員会までは、公益法人化制度移行の關係で旧評議員が出席するように全弓連から要請されているということであり、また開催の案内も私の所に来ていましたので、何だか心配半分で出席してきました。

評議員会は型どおり進められました。が、昨年あたりから、事務局主体の進め方から、理事が役割分担して説明に当るようになりました。しかし失礼ながら、片付け仕事の理解するところまでにはいきませんでした。

決算報告も細かいところまで説明があるわけではなく、たとえあったとしても、理解できるほどの知識もなく採決では拍手を送らざるを得ませんでした。しかし、貸借対照表にしても収支計算書にしても

昨年度との差異、予算額との差異に△が多くみられて、評議員の中からも、赤字決算への不審、その理由、また昨年の遠的選手権大会(奈良県平城宮跡にて開催)と例年との差異はどれぐらいか等の質問が出されました。

新法人移行に係わる最初の評議員として今までの一〇八名から半数以下の四十七名が選任され、長野県からは土川会長が選任されました。

講習会のあり方も見直され、新設される講習会はありませんでしたが、これまでのいくつかの講習会は廃止か他の講習会に統合されるようです。また近似的選手権大会のブロック予選も廃止され、以前のように各県二名の選出方法に移行することになりました。しかしこの二名の選出を各県の予選会で決めるか、ブロック予選会で決めるかは、現在北信越ブロックでは、各県の意向を調査中です。審査申込書様式も一元化され内容も変わってくるかと思いますが、前述したとおり詳細は追って通達があることと思います。

評議員会後、平成二十二年度の功労者表彰があり、昨年十二月末で会長を勇退されました山川先生が他の五名の勇退地連会長先生方と一緒に表彰されました。全国六地連で会長が勇退されましたが、その内三地連が北信越ブロックでした。

(長野県、富山県、石川県)

## 私と弓道

四段 西尾 文子

やわらかな陽射しの中、どこからか耳慣れない音が聞こえてきました。病院への途中、たまたま近道をした時のことです。体育館の奥の弓道場で弓を引いている男女の姿がありました。見るとどなたも自分よりはるかに年上の方達ばかり。とても生き生きと楽しそうな様子がかげえました。当時の私は、新しい土地に引越して一年経った頃。耳の具合が悪くなり激しい運動ができなくなつて、ストレスがたまりはじめていました。運動量も少なそうだし、動きも単純、これなら私にもできるのではないかと、すぐにお仲間に入れていただいたのが弓を始めたきっかけです。クラブチームは十名ほどで、範士の先生はじめほとんどの方が高段者。その中に、全くの初心者私を快く迎え入れて下さり、十数年を過ごしました。昇段よりも弓を楽しむクラブでした。末娘が年中組で、三人の子育てに大変な時期でしたが、弓道は私自身を元気にしてくれ、何事にも辛抱できる強い精神を培う手助けをしてくれました。不器用で亀の歩みで今日まで進んできましたが、焦らず、挫けず、粘り強く取り組む姿を子ども達は見ていてくれたようで、これは、子育てに



おいてとてもよい影響を与えてくれたように思います。家族が第一、弓は二の次三の次で続けてきましたが、子供達が皆社会人となった今、これからは弓に専念することができそうです。長野に在る間に昇段できなかったことは残念ですが、これが今の私の実力です。五月からは新しい土地で弓を引いていることでしょう。上を目指すことも心にとめながら、まずは心と身体の健康のために、人との出会いを広げるために、これからも楽しんで弓を引いていければと思っています。最後に、長野運動公園クラブの皆様お世話になりました。御開帳で大賑わいの中の善光寺大会、電車に乗って出かけた塩尻の講習会、日々の練習の中の何げない会話の数々、たくさん思い出をいただきました。とりわけ雪の中の弓道場は今までに経験したことのない寒さでしたが、凜と張詰めた空気が私は好きでした。ありがとうございました。お元気で。

祝昇段

八段位を拝受して

八段昇段 土川 俊市

平成二十三年五月全日本弓道連盟の審議会におきまして、特別推薦により八段位を拝受いたしました。

思えば、弓を手にしてから四十余年多くの人々と出会い、良き指導者に恵まれ、弓友に助けられ、家族の支えもあつて、幸せな弓道人生を歩んでこれたことを心から感謝しております。

段級審査会の受審を楽しんできた訳ではありませんが、もう受審する機会が無くなつたかと思うと、一抹の寂しさを感じます。

審査会や競技会などに臨むに際して万全に準備し、「よく完璧だ」と言え



る状況で、その場に立ったことはなく、「完璧かな」で臨んでもよかつたためしなく、失敗する方が多かつた。

しかし、準備と稽古に気を抜くことなくやるべきことは全て尽くして臨めと指導され、最後は「神たのみ・仏たのみ」までして臨んでも、思いが叶つたことは少なかつた。

結果はともかく結果は結果として次に前進するスタートだと切り替えて、日々の修練に精進すべきと心得てきた心算でありましたが、何とも無駄多く浪費してきたことか……

今後はその分を県弓道連発展のために尽くして参るとともに日々の修練にも自覚し、気合いを入れて稽古して参ります。

今日までご指導をいただきました多くの先生・先輩・弓友や支えていただいた方々に心から感謝申し上げ、今後一層のご鞭撻を切にお願い申し上げます。

祝昇段

更なる道へ

七段昇段 宮坂 博之

五月晴れの、爽やかな風薫る美しい京都でした。弓一筋に、やつとここまで歩いてきました。思えば長い道のりではありましたが、初段に合格した日が、昨日の様に思い起こせます。

初段になった時には、まさか此処まで来ようとは思ってもみませんでした。振り返れば遠き道です。決して平坦な道を来たわけではありません。弓の病癖に苦しんだこともありましたが、どうやっても中らない時もありました。

二度や三度の事ではありません。長い道のり、幾つもの山や谷を越えてきたように思います。しかし不思議と弓を置こうとは思いませんでした。不屈の精神で歯を食いしばり、と言うこともありませんでした。弓を引くことがごくごく当たり前のように一歩また一歩と歩いて来た様に思います。

そして、こんな私を諦めもせず正しく導いてくれた先生方、手を差し伸べてくれた先輩方。諦めながらも快く弓を引かせてくれた家族。そして……そして飽きもせずお付き合ひ下され、陰になり日向になり支え続けてくれた我が道場の皆さん。本当にありがとうございます。心からの感謝と、与えら

れた段の重みとを嚙締めながら、夕闇迫る古都をあとに致しました。



しかし、前を見ればまだまだ道は続きます。「ただしき道をふみなたがへそ」を胸に、「気品のある香り高い射」を目指し一歩。更なる道へ進んでまいります。

# 第六十三回弓道大会

毎年五月に京都で開催される全日本弓道大会。今年は範士の部で宮澤廣先生が優秀者に、有段者の部で山田静香さん(五段)が優勝されました。

宮澤先生は平成十年、平成十四年に続き今回三回目の範士の部優秀者賞受賞です。



(左から) 川村光良先生、宮澤廣先生、石井勝之先生

## 「環境」

上伊那支部 五段 山田 静香

五月二日・三日に京都「みやこめっせ」で行われた第六十二回全日本弓道大会の有段者の部に出場しました。有段者の部では八百名以上の方が参加しました。演武での一手を詰め、射詰め八寸三本目で優勝が決定しました。

今回優勝という成績が残せたのは、いい環境の中にいるからだと思っています。京都へ出発前日の練習中、外蘭先生に「いいね」と言っていただけでした。大会中不安にならずに、集中して引けたのはきつと「いいね」という言葉をいただいたからだだと思います。そして支部月例や普段の練習中に「頑張れ」「応援している」と温かい言葉をもらいます。また、当日は朝早くから会場にきて控え室を私達のみまで確保してくれる仲間や、優勝が決まったら「おめでとう」とメールをくれた方、たくさんの方に支えられました。祝勝会を開いてくれた仲間もいました。このように温かく見守っていてくださる皆さんがいる環境があるからこそ、伸び伸

びと弓が引け今回の結果に繋がったのだと思います。

六月には国体の最終選考会があります。今年も選手になれるよう環境に感謝しながら頑張りたいと思います。余談ですが、今回の成績にはもう少しいろいろな方の関わりがありました。大学の監督や大学のOBであり日弓連の方、高校の先輩に会いました。挨拶程度になっちゃいましたが、いろいろな方に会えたいい機会にもなりました。そして何より、民宿の方の温か



## 表彰

平成二十三年 春の叙勲

- 旭日双光章―山川茂樹 (名誉会長、上伊那支部) スポーツ振興

平成二十三年三月

長野県体育協会より表彰

- 有功章―外蘭公毅 (教士七段、上伊那支部)
- 栄光章―志村 仁 (錬士五段、諏訪支部)
- 栄光章―市川隆光 (五段、諏訪支部)
- 勲功章―北嶋 晋 (教士六段、上伊那支部)
- 有功章―諏訪市弓道協会
- 有功章―茅野市弓道協会

さが嬉しかったです。「優勝しました」と報告したらすごく喜んでくれました。同じく宿泊していた愛知県の方「おめでとう、今夜はお祝いだ!」と言ってくれました。残念ながら一緒にできませんでしたが、お風呂上りのウーロン茶をサーブしてくださり、「おめでとう」と書かれたウーロン茶がおいしかったです。こういうのも環境なのかなと思いました。

# 大会結果

## 穂高神社奉納御奉射祭県下弓道大会

○3月17日(木) 穂高神社弓道場

### ▲団体高校結果

- 1位 豊科男子A (横山拓也、中村周平、前田聖也)
- 2位 諏訪実業B (富樫めぐみ、志賀拓己、湯田坂舞)
- 3位 松商学園A (松井勇樹、五明大季、村山勇太)

### ▲個人高校結果

- 1位 赤穂文哉 (田川A) 6中
- 2位 上川桃子 (豊科女子B) 6中
- 3位 松井勇樹 (松商学園A) 6中
- ▲団体一般結果
- 1位 帝産ロッヂ (市川隆光、原 深雪、亀岡英司) 6中
- 2位 わさび (福沢潤哉、藤森千由貴、野澤和樹) 6中
- 3位 飯島陣屋 (湯沢幸司、南島健、今井勉) 5中

### ▲個人一般結果

- 1位 亀岡英司 (帝産ロッヂ) 6中
- 2位 松井幸彦 (安曇D) 4中
- 3位 横川善一 (安曇P) 4中

## 第26回塩尻市弓道大会

○3月20日(日) 塩尻市弓道場

★開会式のまえに災害で亡くなられた方へ、参加者全員で黙祷をささげ本大会の参加料の一部を長野県弓道連盟とおして、義援金に寄付することを報告しました。

塩尻支部 支部長 加藤さち子

### ▲団体の部結果

- 1位 田川A (北野聖二、片山友輔、赤穂文哉)
- 2位 志学館E (羽多野萌、徳原稜紀、丸山敏樹)
- 3位 豊科女子A (上川桃子、小出佳歩、高山寿子)

### ▲個人の部結果

- 1位 松沢勇平
- 2位 青嶋実美
- 3位 赤穂文哉
- 4位 広田義照
- 5位 野田竜成

## 第20回県下弓道駒ヶ根大会

○4月3日(日) 駒ヶ根市弓道場

参加数・64チーム189人

### ▲団体の部結果

- 1位 下農A (北原未来将、倉田大輔、関島礼太)
- 2位 山二発條A (志村仁、今井文明、伊藤大幸)
- 3位 弥生C (有賀俊裕、小林省吾、浦野幸二郎)

### ▲個人高校男子(8射)結果

- 1位 小松高明 (弥生) 7中
- 2位 天道諒太 (伊那北) 6中
- 3位 北原未来将(下農) 6中
- 4位 金安俊哉 (赤穂) 6中
- 5位 柴 翔太 (岡工) 5中

### ▲個人高校女子(8射)結果

- 1位 田畑加奈 (赤穂) 6中
- 2位 小林千華 (赤穂) 6中
- 3位 大前侑未 (赤穂) 6中
- 4位 福島春奈 (伊那北) 5中
- 5位 小澤みゆき(辰野) 5中

### ▲個人一般(8射)結果

## 平成23年度長野県勤労者弓道選手権大会兼第58回全日本勤労者弓道選手権大会長野県予選会

○4月10日(日) 駒ヶ根市弓道場

参加数・8チーム24人 1人8射1チーム24射

### ▲団体(予選通過4チームによるリーグ戦)

- 1位 山二発條 2勝0敗0分 (志村 仁、今井文明、伊藤大幸)
- 2位 セイコーエブソンA 1勝0敗2分 (小越 剛、伊藤公二、木下祿章)
- 3位 東信教員 1勝1敗1分 (小林博正、川俣 晃、掛川 渡)

### ▲個人(予選通過者による射話競射)

- 1位 杉山滋志 (トエックス)
  - 2位 木下祿章 (セイコーエブソン)
  - 3位 志村 仁 (山二発條)
- ▲射技優秀賞 杉山滋志 (トエックス)

## 第6回野辺山洗心弓道大会

○4月16日(土)～17日(日)

野辺山帝産ロッヂ洗心弓道場

▲近的20射、遠的20射、合計40射

- 1位 中村 宏 (下諏訪) 19中 14中 33中
- 2位 亀岡英司 (南佐久) 15中 16中 31中
- 3位 森泉拓志 (佐久) 14中 12中 26中

### 4位 大久保雅揮(茨城県) 16中 9中 25中

### 5位 根本充康 (神奈川県) 14中 10中 24中

### ▲遠的最低得点賞

安藤直貴 須坂 20射130点

### ▲遠的チーム戦結果

安藤直貴(須坂)、大久保雅揮(茨城県)、原 深雪(諏訪)

## 第67回上信越弓道大会

○4月17日(日) 小諸懐古射院 参加数50名

### ▲団体

- 1位 佐久A (桜井圭、小林勇太、金原正、佐藤陽二)
- 2位 懐古園 (栗林正直、後藤丈夫、土屋きよみ、相原由美子)
- 3位 長野運動公園(武) (大原由美子、滝沢聡子、宮澤久美子、中島勤)

### ▲個人

- 1位 金原 正 (佐久)
- 2位 桜井 圭 (佐久)
- 3位 富沢 正人 (長野)

### ▲金的

桜井圭、大原由美子、滝沢聡子、新崎睦美

## 第38回近県弓道大会

○4月24日(日) 長野市運動公園弓道場

参加数・653名

- ▲団体の部(総射数40) 男子団体 1位 須坂東B (篠塚亮太、岩崎誠、松崎柳太、小平健太郎、保倉大輝) 25中

2位 須坂B 24中

(森山和紀、竹内裕亮、山崎征樹、羽生田智哉、大塚章平)

3位 上田A 23中

(飯塚寛貴、小林佑太、竹村真二、発田誠貴、金子 周)

▲女子団体結果

1位 中野西C 24中

(牧野玲華、宮崎麻衣、重倉朱莉、近藤由佳、島田祐衣)

2位 松本美須ヶヶ丘C 23中

(遠山和泉、山本沙耶、和地球緒、藤田真帆、勝家美菜)

3位 須坂B 23中

(小林里衣、豊田友紀、坂綾子、西山碧、涌井香葉)

▲個人の部(総射数4)皆中者の競射による

1位 石田 稜 (上田東)

2位 松崎柳太 (須坂東)

3位 金子 周 (上田)

大会結果善光寺弓道大会

○4月24日(日) 善光寺弓道場

参加数167名 射数8射

▲男子個人戦

1位 清水北登 (信州大学) 8中

2位 松本匠人 (信大医学部) 8中

3位 宮坂和久 (中高支部) 7中

4位 白沢恒夫 (長野支部) 6中

5位 今野雅隆 (信大医学部) 6中

※同中者は、競射による。

▲女子個人戦

1位 村松史織 (信州大学) 8中

2位 野田陽子 (木曾支部) 6中

3位 宮下詩帆 (信州大学) 6中

4位 中島彩加 (長野大学) 6中

5位 中村真美 (長野大学) 5中

※同中者は、競射による。

▲団体戦

1位 信州大学A 21中

(清水北登、佐野司、岩波哲也、山下貴)

2位 信州大学B 21中

(村松詩織、小林愛弥、蔵本豊、濱隆彦)

3位 信州大学D 19中

(岩塚拓樹、鈴江皇規、峰村和樹、大貫智也)

第55回北信弓道大会

○4月29日(金) 飯山市弓道場

参加数：高校男子50チーム249名、高校女子60チーム293名、中学男子13名、中学女子14名、一般男子52名、一般女子18名、合計641名

※同中は競射により順位を決定

▲近的団体5人30射

1位 長野日大E 20中

(遠藤融成、松葉侑樹、竹内達哉、澤田士、櫻井宏樹)

2位 長野吉田B 19中

(青木駿、降旗克行、伊藤信之介、馬島洪作、宮坂鴻介)

3位 須坂東B 17中

(篠塚亮太、岩楓七、小平健太郎、保倉大輝)

▲近的団体5人30射

1位 中野西C 18中

(牧野玲華、宮崎麻衣、重倉朱莉、近藤由佳、島田祐衣)

2位 須坂B 17中

(小林里衣、豊田友紀、坂綾子、西山 碧、涌井香葉)

3位 長野吉田C 16中

(三井美友奈、田中都萌、松田梨江、金子まゆは、小林里紗)

▲近的個人6射高校の部男子

1位 伊藤信之介 (長野吉田) 6中

2位 新井蒙太 (長野吉田) 6中

3位 遠藤融成 (長野日大) 6中

▲近的個人6射高校の部女子

1位 高橋亜実 (飯山北) 6中

2位 永江有子 (長野日大) 5中

3位 赤沢美月 (屋代) 5中

▲近的個人6射中学生の部男子

1位 坂口裕紀 (長野日大) 3中

2位 小林和樹 (長野日大) 2中

3位 金子宝史 (長野日大) 2中

▲近的個人6射中学生の部女子

1位 滝澤里帆 (長野日大) 5中

2位 米持奈々 (長野日大) 3中

3位 中村聖奈 (長野日大) 2中

▲近的個人6射一般の部男子

1位 宮川 繁 (小千谷) 6中

2位 大蔵 務 (長野) 6中

3位 宮本駿平 (長野高専) 5中

4位 渡辺哲也 (小千谷) 5中

5位 安藤直貴 (須高) 4中

▲近的個人6射一般の部女子

1位 清水和代 (飯山) 5中

2位 窪田和恵 (大北) 4中

3位 夏目澄江 (中高) 4中

4位 武田礼子 (中高) 3中

5位 伊藤 梓 (長野) 3中

第69回護国神社例大祭奉納県下弓道大会

○4月29日(金) 護国神社弓道場

参加数：一般85名(男子55名、女子30名)、高校生108名(男子43名、女子65名)、合計193名(男子98名、女子95名)

▲近的個人8射高校の部

1位 池田紗綾 (上田東) 8中

2位 富岡大輔 (松商学園) 8中

3位 中山雅之 (大町) 7中

4位 座間俊兆 (松本美須ヶヶ丘) 7中

5位 村山勇太 (松商学園) 7中

▲近的個人8射一般の部

1位 片野英明 (信大) 8中

2位 日高翔伍 (信大) 7中

3位 田中崇行 (信大) 7中

4位 寺島信夫 (松本支部) 7中

5位 西沢 徹 (大北支部) 7中

▲近的団体24射

1位 松商学園A 18中

(富岡大輔、中村拓哉、村山勇太)

2位 松商学園B 17中

(新井啓正、松井勇樹、五明大季)

3位 松本美須ヶヶ男子A 16中

(座間俊兆、遠山健人、宮原 俊)

▲近的団体24射

1位 信大B 18中

(日高翔伍、永治拓也、小原宙大)

2位 信大D 17中

(月森翔太、柴田悠貴、片野英明)

3位 信用組合E 16中

(小越剛・伊藤公二・吉田博行)

第62回全日本弓道大会

○5月2日(月)～3日(火)

京都市勧業館(みやこめっせ)第3展示場

▲範士の部優秀者

宮澤 廣 (範士九段) 長鉄

▲有段者の部入賞者

優勝 山田静香 (五段) 上伊那

第38回佐久鯉祭り弓道大会

○5月5日(木) 佐久市駒場公園弓道場  
参加数…一般102名、高校生92名、  
計194名

▲近的個人8射一般の部

- 1位 武田礼子 (中高支部) 8中
- 2位 岡本曉徳 (帝産ロッヂ) 8中
- 3位 栗林正直 (小諸支部) 7中

▲高校の部団体戦個人3人×8射計24射

- 1位 北佐久農業 17中
- (花里勇輝、小平 駿、荻原愛莉)
- 2位 野沢南 13中
- (日向礼奈、岩波和輝、土屋俊悟)
- 3位 岩村田 11中
- (石田隼人、窪田流聖、浅井健也)

第48回池田町弓道場開設記念県下弓道大会

○5月8日(日) 主催…池田町体育協会

主管…池田町弓道会 会場…池田町弓道場  
参加数…280名 競技種目…近的

★大会参加費の一部を東日本大震災義援金として栄村に送金いたします。

▲個人の部(一般・高校共通)

- 1位 高野修一 (大町高G)
- 2位 澤渡悠人 (豊科男子C)
- 3位 巢山莉菜 (松商学園D)

▲団体の部 高校

- 1位 豊科女子A (水谷 蒼、上川桃子、野瀬絢香)
  - 2位 松商学園A (富岡大輔、中村拓哉、村山勇太)
  - 3位 大町F (酒井優太、中山雅之、高田岳大)
- ▲団体の部 一般
- 1位 池田B (北川原徳永、渡辺敏夫、横山悦子)

2位 混成A

(山田和英、生田憲克、遠山昌信)  
3位 大町いろは (竹山晴美、西澤 徹、佐藤君子)

第62回全日本男子弓道選手権大会 長野県予選会 決勝順位

第44回全日本女子弓道選手権大会 長野県予選会 決勝順位

○5月8日 松本市弓道場

▲男子

- 1位 宮坂博之
- 2位 平澤敏弘
- 3位 井垣貴夫
- 4位 新津一夫
- 5位 大口晴男

▲女子

- 1位 武田礼子
- 2位 久保田智恵
- 3位 松下はるみ
- 4位 中村美穂
- 5位 等々力純子



審査合格者

■「東海地区」臨時中央審査

5月28日  
▽錬士 亀岡英司 (南佐久支部)

5月29日  
▽六段 山本雅晃 (長野支部)

■「京都」定期中央審査

5月5日

▽六段 井上宣史 (南佐久支部)

▽六段 松島一夫 (飯伊支部)

5月4日

▽七段 宮坂博之 (諏訪支部)

■平成23年度推薦

特別推薦

5月1日付

▽八段 土川俊市 (木曾支部)

お悔やみ申し上げます(敬称略)

木曾支部 上沼文隆(ぶんにゅう) (85歳)  
平成23年5月6日ご逝去

お詫びと訂正

37号6ページに北嶋先生を前競技部長と表示いたしました。訂正しお詫びいたします。

つづいふ

東日本大震災や、県内でも栄村の地震の被害に遇われた方々に対し、筆舌には尽くせませんが、ご心痛やご苦悩に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り致します。

さて、四月からNHKの朝の連続テレビ小説『おひさま』が始まりました。このドラマの舞台は、雄大な北アルプスと川に抱かれた、豊かな自然の安曇野と松本です。地元ということ、安曇野ではもう『おひさま』一色です。笑ったり、うなづいたり、一緒に涙を流したり、ティッシュの減りの早いものつて…。

日本食である信州そばが人々をつないでいくドラマのようですね。

そんなドラマの舞台、安曇野へ皆様お出掛けになられてはいかがでしょう。折しも八月七日には安曇野弓道大会が豊科弓道場で行われます。

ドラマがそばでつなぐなら、弓でつなわれた私たちも、一層絆を深めて、お互いに切磋琢磨していきたいものです。

(丸山萬佐巳)